

助言を自分の文章に生かそう

令和5年2月7日(火) 6校時 1年2組22名(男子12名 女子10名)

1 単元について

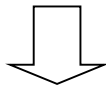
- 本単元は〔知識及び技能〕「(3) 言語文化」〔思考・判断・表現〕「B書く(1)オ」の内容に基づき、設定した。中学校学習指導要領には次のように記されている。

(3) オ 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。

(1) オ 根拠の明確さ等について、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。

(1) 単元観

本単元では、作品に対する明確な「評価」と「根拠」が示される書評を書く。単なる感想文ではなく、思い出に残る作品を対象にし、作品の内容や魅力を語ることに重点を置く「批評」の入門となる教材である。



(2) 生徒観

本学級の生徒に事前に行ったアンケート(令和5年1月18日実施、20名回答、3名欠席)では、「本を読むことが好きだ。」の問いに対する肯定的な回答の割合は85%であった。また、「どのようなジャンルを読みますか。」の問いに対する回答は、フィクションが70%で、ノンフィクションは0%であった。

また、本単元で学習する内容に関しては、「文章を書くことが好きか。」の問いに対する肯定的な回答の割合は20%であり、「人前で話すのは好きか。」の問いに対する肯定的な回答の割合は40%であった。

このことから、話す内容はあるものの、それを文章に表したり、発表したりすることが苦手であることが分かる。



(3) 指導観

本単元では、「書評を書き、交流することを通して、『批評文』の基礎力をつけ、読書の幅を広げよう。」という単元を貫く課題を設定する。生徒は作品から作者の伝えたいことを読み取ったり、自分の考えをまとめたりするために本を何度も読み返すことになる。どこをどう紹介するのか考えながら、本の魅力を探っていく活動は生徒の主体的な学習につながる。自分の意図や考えを的確に伝えるために、表現や構成、根拠の明確さなど考えて書評を書くことで表現する力を身に付けさせたい。

また、個々に読書をすることはあっても、読んだ本に関する情報を交換することは少なく、本の話題が学級全体へと広がっていくことはほとんどない。どうすれば相手に分かりやすく伝えることができるのか、相手の話を引き出すためにはどのような質問をすればいいのかなど、生徒に話し手と聞き手の両方の立場を経験させることは、社会生活に生きる効果的な学習だと考える。

(4) 単元の目標

○読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。

【ア 知識・技能】

○根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。

【イ 思考・判断・表現】

○言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

【ウ 主体的に学習に取り組む態度】

(5) 本单元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本校として、次の資質・能力の育成に重点を置いている。

①言語・数量・情報 ②問題解決力 ③情報活用力 ④コミュニケーション能力 ⑤主体性・協調性

この中から、本单元において育成しようとする資質・能力とのかかわりについて、次の2点に重点を置くものとする。

③問題解決力

本单元では、「書評を書き、交流することを通して、『批評文』の基礎力をつけ、読書の幅を広げよう。」という単元を貫く問いを設定する。自分の書いた書評を基にして、班で読み合い、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだす。これらの学習活動を通して、問題解決力を身に付けさせたい。

④コミュニケーション能力

Google Jamboard を活用して、各班から出た質問を整理し、読み手が答えるという学習活動を行う。聞き手と読み手と司会者で協力しながら作業する。課題の解決に向けて、他者と協働するコミュニケーション能力を身に付けさせたい。

(6) 本質的な問い

○批評するとはどういうことだろう。

(7) 単元を貫く問い

○書評を書き、交流することを通して、『批評文』の基礎力をつけたら、読書の幅は広がるのか。

(8) 個別の問い

- 作品を選び、観点を決めよう。
- 決めた観点到に沿って、書評を書こう。
- 各班で書評を読み合い、お互いに助言し合おう。
- 書評合戦に向けて、各班で練習しよう。
- 書評合戦を行い、チャンプ本を決め、読書の幅を広げよう。

2 単元の評価規準

観点	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。	①根拠の明確さ等について、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。	①言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。

3 指導計画（5時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点（○） 予想される生徒の反応（・）	評価規準 【観点】（評価方法）		
一	1	【単元を貫く課題】 書評を書き、交流することを通して、「批評文」の基礎力をつけ、読書の幅を広げよう。				
		1. 導入	○書評とは何かを知る。			
		2. 本時の学習課題の確認				
		めあて：作品を選び、観点を決めよう。				
		3. 今までに読んだ作品の魅力を挙げる。	○結末、テーマ、登場人物、心情、描写などの魅力を挙げさせる。			
4. 作品を選び、その魅力を分析する。	○挙げた魅力についてどうしてそのような魅力が生まれているのかを考えさせる。					
	5. 振り返り	○次回、書評を書くことを確認させる。	【ウ①】（振り返りシート）			
二	2	1. 導入	○書評に使う言葉を確認する。			
		2. 本時の学習課題の確認				
		めあて：決めた観点到に沿って、書評を書こう。				
		3. 決めた観点を中心に、書き出しを書く。	○選んだ作品の一番の魅力は、何かを考え、その魅力を書き出しにする。			
		4. 400字程度の書評を書く。	○「書評に使う言葉」や「語彙を豊かに」を参照に文末表現に同じ言葉を使わないように意識する。			
	5. 振り返り		【ア①】（作品、振り返りシート）			
三	3	1. 導入	○自分の書評を読み返す。			
		2. 本時の学習課題の確認				
		めあて：各班で書評を読み合い、お互いに助言し合おう。				
		3. 助言すべき内容をつかむ。	○書評を読んでよい点に触れるとともに、改善点を述べるルールを確認する。			
		4. 各班で書評を読み、助言をする。	○各班で書評を読み合い、助言をする。 ○助言をメモしておく。			
		5. 助言を参考にして書評を書き直す。	○自分の書評のよい点や改善点など気づいたことをもとにして、書評を書き直す。			
	6. 振り返り		【イ①】（振り返りシート）			

四	4	1. 導入 本時の学習課題の確認	○書評合戦のルールを知る。	【イ①】(振り 返しシート)
		めあて：書評合戦に向けて、各班で練習しよう。 2. 各班で書評合戦のルールに沿って練習する。 3. 振り返り	○書評のよい点や改善点が活かされているか確認する。	
五	5 (本時)	1. 導入	○書評合戦のルールを確認する。	【ア①ウ①】 (作品、ふり 返しシート)
		2. 本時の学習課題の確認 めあて：書評合戦を行い、チャンプ本を決め、読書の幅を広げよう。 3. 評価の観点を確認する。 4. 書評合戦をする。 5. まとめ 6. 振り返り	○観点を確認する。 ○書評合戦をし、チャンプ本を決める。 ○書評が何かを確認する。	

4 本時の展開 (5/5時間)

(1) 本時の目標

書評合戦を行い、チャンプ本を決め、読書の幅を広げる。

(2) 観点別評価規準

イ① 根拠の明確さ等について、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだし
ている。

ウ① 言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思い
や考えを伝え合おうとしている。

十分満足 (A)	おおむね満足 (B)	努力を要する生徒への手だて (C)
自分の意図や考えを的確に伝えるために、表現や構成、根拠の明確さなど考えたうえで、他者の助言を生かして改善している。	自分の意図や考えを的確に伝えるために、表現や構成、根拠の明確さなどを考えて表現している。	自分の思う作品の魅力を根拠を挙げているが、具体的に説明できていない。
記述例1 この作品の魅力は、繰り返しの構成と、それをくずす絶妙な一語にある。抜けない大きなかぶを順番に人や動物が加わって引っ張るといふ繰り返して話が進む。だが、抜けないかぶのしぶとさをたった一語で絶妙に表している。	記述例1 この作品の魅力は、繰り返しの構成と、それをくずす絶妙な一語にある。抜けない大きなかぶを引っ張るといふくり返して話が進む。その抜けないかぶのしぶとさを一語で表現している。	この作品の魅力は、繰り返しの構成と、それをくずす絶妙な一語にある。
振り返り例 他者の助言を参考にしたことで、読書感想文とは違い、その本の内容や魅力を具体的な根拠を示して発表できた。お互いの書評を聞き、質問し合うことで、自分だけでなく相手の書評のよい点や改善点に気づくことができた。	振り返り例 その本の内容や魅力を具体的な根拠を示して発表することができた。また、お互いの書評を聞き合うことで、自分の書評のよい点や改善点を見つけることができた。	振り返り例 他の人の書評を聞き、質問の中で、よい点や改善点を交流させることを通して、自分の書評と比較して学習活動の補助とする。

(3) 板書計画

めあて

書評合戦を行い、チャンプ本を決め、
読書の幅を広げよう。

≪ 書評合戦 ≫

- ① 発表は一人一分
- ② 発表後、質問
- ③ チャンプ本決定

評価の観点

- ・ 内容の要点をまとめているか。
- ・ 筋道の立った順序で話しているか。
- ・ 声の大きさや速さに配慮しているか。
- ・ 聞いている人を見て話しているか。

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 予想される生徒の反応 (・)	評価規準 (評価方法) 配慮を要する生徒への支援 (◆)
1. 本時の導入 2. 本時のめあてを確認をする。	○書評合戦のルールを確認させる。 ①書評発表の制限時間は1人1分とする。 ②発表後、質問時間を設ける。 ③チャンプ本を決める。 ④3回戦行う。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて：書評合戦を行い、チャンプ本を決め、読書の幅を広げよう。</div>		
3. 評価の観点を確認する。 4. 書評合戦をする。 1回戦 絵本 2回戦 ノンフィクション 3回戦 フィクション	○評価の観点を確認させる。 ①内容の要点をまとめているか。 ②筋道の立った順序で話しているか。 ③声の大きさ速さに配慮しているか。 ④聞いている人を見て話しているか。 ○各グループの代表が一人ずつ発表させる。 ○発表時間は、1人1分。 ○質問は、発表のよいところや内容を深めるものとさせる。 ○質問はJamboardの付箋に書き込ませる。 ○司会者は質問を精選させる。また、代表者を指名して答えさせる。 ○チャンプ本を決めさせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">瀬戸田シンキングタイム</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">ICT</div> ◆Googlejamboard を用いて質問を受け付ける。 ◆同じ質問が重ならない、同じ回答者にならないよう司会者に配慮させる。 ◆Google forms を用いてチャンプ本を決定する。
5. まとめ		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">【イ①ウ①】 (作品、振り返りシート)</div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">書評を聞き合い、観点に沿って評価することで、チャンプ本を決めることができ、読書の幅を広げることができる。</div>		
6. 振り返り	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">読書感想文とは違って、その本の内容や魅力を具体的な根拠を示して発表することができた。お互いの書評を聞き、質問し合うことで、自分だけでなく相手の書評のよい点や改善点に気づくことができた。</div>	

※□囲みで示した活動が、本時におけるシンキングタイムである。